

在本邦アメリカ合衆国大使館
駐日米国大使
ラーム・エマニュエル閣下

貴国がネバダ州の核実験場において、5月14日に、臨界前核実験を実施したとの報に接し、驚きとともに強い憤りを禁じ得ません。

核爆発を伴わないとはいえ、今回の臨界前核実験を強行したことは、核兵器を廃絶し、恒久平和を実現しようとする全人類共通の願いを踏みにじるものであります。

核兵器によって自国の安全を確保することはできません。核兵器がこの地球上に存在する限り、人類に真の平和が訪れることは決してないものと断言をいたします。

広島・長崎の惨禍という世界唯一の体験を有する私たちには、美しい郷土の自然と豊かな文化を守り、平和な未来を次代の子どもたちに引き継ぐ重要な責務があり、この自覚のもと、釧路市は2006年8月15日、市民の総意として「核兵器廃絶平和都市」を宣言するとともに、あらゆる生命の存続に深刻な脅威を与える核兵器の廃絶を訴えているものであります。

ここに、全釧路市民を代表し、貴国の行った核実験に対し強い抗議の意を表するとともに、再度、こうした実験を行うことのないよう要請するものです。

貴職におかれましては、上記抗議内容と要請について、本国へ必ず伝達されますよう、重ねて要請いたします。

2024年 5月22日

釧路市長 蝦名大也